

領域若手の会

計画研究班 原智彦（京都大学）

2024年3月12日から14日にかけて、理化学研究所和光地区（鈴木梅太郎ホール）とホテルカデンツァ東京にて領域若手の会が開催されました。参加者数は部分参加者も合わせると60人から70人程度でした。本稿では、発表や質疑が活発に行なわれた三日間の様子をレポートいたします。

1日目、核輸送とクロマチン構造に関するセッションから始まりました。その中で、前島一博先生（遺伝研）から、ヌクレオソームの動きを検出する新手法についての発表がありました。そして今本尚子先生による plenary talk の後、和光市駅近くのレストランにて懇親会が開かれました。

2日目の朝からは平野達也先生（理研）及び西山朋子先生（京都大学）など、染色体のダイナミクスに関する発表があり、白熱した質疑応答が続きました。お昼にはポスターセッションがあり、軽食を食べながら各自のポスター前で活発な議論が繰り広げられました。このように充実した理研シンポジウムは、参加者一同による今本先生への standing ovation で幕を閉じました。光が丘のホテルに移動・夕食の後ナイトセッションが開かれました。本セッションは岡田由紀先生（東京大学）による EMBO Leadership Course のご紹介で始まりました。このような人材育成プログラムを知る機会も多く参加者にとって初めてだったのでとても興味深い内容でした。続けて鈴木宏明先生（中央大学）と瀧ノ上正浩先生（東京工業大学）の研究室に所属する学生による研究紹介が行われた後、参加者間の自由討論を通じて親睦を深め合いながらその日の夜は更けていきました。

最終日は学生及び若手研究者らによる口頭発表（計19題）が行われました。初めに、高田彰二先生の研究室及び竹俣直道先生（共に京都大学）からはアーキアの SMC について、岡田研究室からは精子のクロマチン構造について、前島研究室からはライブセル観察に基づいたクロマチン動態についてそれぞれ発表がありました。午前最後のセッションでは、瀧ノ上先生と Camilla BJÖRKEGREN 先生（Karolinska Institutet）によるご講演が行われ、その後、先生方を囲んでの昼食となりました。午後は、鈴木研究室・瀧ノ上研究室・Richard Wong 先生の研究室（金沢大学）から DNA ナノ構造とマイクロ流体デバイスに関する発表がありました。また、クロマチン高次構造形成に関して、白髪克彦先生（東京大学）の研究室からはゲノム解析、西山研究室からは SMC 一分子解析の研究結果が発表された他、横田宏博士（京都大学）から DNA の力学モデルについての報告もなされ、最後まで議論が尽きない一日となりました。

若手の会全体を振り返ると、各々の研究活動に対するモチベーションを高める非常に良い機会だったのではないかと思います。最後になりますが、素晴らしい会を開催するに当たってご尽力頂いた先生方・ラボスタッフ及び学生の皆様方に深く感謝申し上げます。

